

# 研究を志す学生の早期活性化に向けた科学の灯

Science Opportunity For Igniting Early-undergraduate Research



廉 明德, 本田 紫苑, 岸上 栞菜, 前原 凜花

## 01 背景と目的

サイエンス研究評価型入試の開始などを契機に、学部全体において早期の研究活動に対する意欲やニーズが高まっていることが、事前のアンケート調査の結果から見いだされた。一方で、そのような早期研究活動に対しては、現状十分な門扉が開かれていない。早期に研究活動を始めたい学生にとっては、費用支援のみならず、必要な情報の提供や、先輩学生・教員との交流の機会も不可欠である。本プロジェクトでは「早期の研究・探究活動に意欲を持つ学部生のニーズを掘り起こし、それぞれが望むサイエンスを実現させるを後押しすること」を目的として、様々な支援を行った。

## 02 活動実績

項目	内容・結果
総科カフェ (ポスター発表・交流)	学部生・院生によるポスター発表：26名参加 学部生から教員まで幅広い交流機会を創出
Open Lab.との連携	高校生を対象にオープンキャンパスでラボツアーを企画しているOpen Lab.と連携し、学部生枠を試験的に設置 広報不足が要因となり、学部生の参加は1名のみに残った
日本科学教育学会 第49回年会での 情報収集	学会テーマ：「次世代の育成と科学教育研究」 シンポジウム「地方から発信する次世代科学人材育成の展望と課題」に参加 高大接続入試以降の教育は他大学でも課題となっている
ラボツアー	自然環境科学授業科目群：7名参加 物性科学授業科目群：中止
サイエンスカフェ	テーマ：「文学部卒で、今は植物の研究”も”やっています」 登壇者：山本 晃弘 博士（広島市植物公園）
サイエンスカフェ	テーマ：「もの言わぬ証拠品との対話、それが科学捜査」 登壇者：森川 俊雄 博士（広島県警察本部科学捜査研究所）
教員による 文理コラボカフェ &懇親会	テーマ：「トウモロコシが築いた人々の暮らし」 登壇者：青木 利夫 教授（越境文化）×和崎 淳 教授（生命科学）
希望者への 個別研究支援	研究室への接続・他大学の研究プログラム紹介をなど実施 1件の研究において総合科学部教員支援のもと、学会発表まで実現した

## 03 まとめ

将来的に、若い学生の柔軟で独創的なアイデアにより、教員が学生を中心にまとまるような「総合科学」が継続的に出芽できる先駆的な仕組みの実現が求められる。